2021 年 8 月吉日

チーム代表者　各位

# 「２０２１若葉台カップ選抜サッカー大会」優勝レポート

2021 年 7 月 10 日（土）、11 日（日）に東京都と神奈川県において「2021 若葉台カップ選抜サッカー大会」が開催された。大田区選抜は、8 年ぶり 6 回目の優勝となりました。大会の様子をレポートします。

| | |
|---|---|
| 大会名 | ２０２１若葉台カップ選抜大会 |
| 主催 | ２４６サッカー連盟 |
| 日程 | ２０２１年7月１０日（土）、１１日（日） |
| 会場 | 横浜市、海老名市、川崎市、東京都 |

■大会概要とＢのオープン参加について

新型コロナウイルスの影響により昨年度は中止となったため、若葉台カップ選抜大会は 2 年ぶりの開催となった。現在は 8 人制が主流である。しかし、大会は 11 人制で行なわれた。選手たちは初めて行う 11 人制に試行錯誤を繰り返しながら、優勝を目指してプレーしていた。

今回、辞退チームが出た。そのため、大会本部からの参加要請を受けて、大田区選抜はＡとＢの 2 チーム出場することとなった。しかし、Ｂは他チームとの公平性の観点からオープン参加である。したがって、Ｂは予選リーグのみに参加した。オープン参加であるが、選抜大会に 2 チーム出場し、多くの選手がこうした経験を積むことが出来たことは貴重な経験となった。

■選考方法、結果について

今回の大田区選抜は、前週に行った「大田区選抜研修大会」でのパフォーマンス、およびこれまでの各種トレセン活動でのパフォーマンスを総合評価してメンバーを選考した。トーマスカップ東京都選抜大会が延期となったため、8 ブロックトレセンに所属する選手も加えて、オール大田区として大会に挑んだ。

■評価点について

大会を通して評価できる点は、まずは優勝という結果である。5 試合を通して、4 勝 1 敗（8 得点、1 失点）という成績は大変評価できるものである。また、Ｂは予選リーグを 2 勝 1 敗（3 得点、3 失点）であった。オープン参加のため成績は残らないが、グループ第 2 位という成績であり同じく評価に値する。

内容における一つ目の評価点は、大会を通して全ての選手が出場して、全ての選手が自分の役割を全うしたことである。決勝の木更津選抜戦では緊迫感のある中、全 20 選手が試合に出場した。また、Ｂは予選 3 試合すべてで前半と後半で選手を入れ替えて試合に挑んだ。佐藤（Jr チャンプ）は、勝ち負けというプレッシャーのある選抜大会において、選手が限られた出場時間の中で自分の役割を全うしようという意識は大変素晴らしいと評価していた。

大田区選抜は、戦力となる選手のみを選出している。当然であるが、温情での選出は行わない。したがって、選出した全ての選手にプレーする機会を与えている。なぜなら、子どもたちにプレーするチャンスを与えることは指導者の大切な責務であるからだ。そうした結果、予選リーグで高いパフォーマンスを発揮して、B から A に 2 名昇格する選手が現れたことは評価すべき点であろう。

二つ目の評価点は、技術と戦術面で改善が見られたことである。森山（開桜 FC）は、最初は個人の無理な突破によるボールロストが大変多かった。しかし、決勝戦では中盤でのボール保持からオープンサイドへ展開し、意図のある縦パスをトップに入れて得点につなげることができたとしている。したがって、個人の技術をチーム戦術のために高いレベルで発揮することが出来ていたと言える。

また、守備の戦術面での改善は有効であった。ＦＷからのボールへ制限を掛けることで、中盤でのタイトな守備意識につながった（森山,開桜ＦＣ）。ＤＦラインのポジショニングも良くなり、大会が進むにつれてＤＦラインは安定していった（長田,大森キッカーズ）。と言っていることからも、11 人制での 4 バックという慣れない戦術の中、チーム全体が守備の意識を高く持てていたと言える。小学生年代において守備の意識を高く持ち、チームが戦術的に機能したことは評価できる点である。

三つ目の評価点は、全選手が明るく主体的に取り組んでくれたことである。決勝戦は、選手とスタッフの気持ちも一丸となり、絶対に優勝するという強い気持ちで挑めた（森山,開桜 FC）。また、選手１人１人が上達しようという気持ちがあった。そして、自分のポジションにおける役割を理解し、サッカーに必要な戦う気持ちと責任を見せてくれた（北田,大田クラブ）。としている。このことからも、選手はモチベーション高く、一生懸命プレーしていたと言える。選抜大会は、こうした選手のメンタル面のマネジメントは大切となってくる。また、選手のキャラクターや個性、そして明るさ、笑顔といったことも優勝の誘因となっていると言える。

しかし、予選リーグで A は B に 0-1 で惜敗した。モチベーション高く、前線からプレッシャーをかける B に対して、A は受け身となった。よって、勢いに勝る B が先制点を奪った後は、A は個人の力に頼った単調な攻撃になっていた。ようするに、内容、結果共にその試合においては B が上回っていた。長田（大森キッカーズ）は、B に惜敗したことで試合に臨む気持ちや上手くいかない時の心構えなど、試合に対する様々な側面を学ぶことができたとしている。したがって、拮抗した試合や切磋琢磨した環境作りは子どもたちの成長のためには重要であると考えられる。

■課題について

課題は、オフ・ザ・ピッチでの良い準備、習慣が不足していることである。選手は明るくポジティブに挑んでくれたことが優勝の要因であろう。しかし、試合にレガースを忘れる選手がいた。これは、試合を想定して自分で準備することが出来ていないからであろう。自分で考え、必要な準備を行うことが試合でのパフォーマンスにつながる。

だからといって、そうした準備をコーチや保護者が行ってしまっては本末転倒である。大人の過保護な対応で選手の成長を妨げることがあってはならない。子どもの失敗は将来の糧となる。子どもには沢山の失敗をさせるべきである。そして、そう信じることがプレーヤーズファーストの概念ではないだろうか。

したがって、大田区選抜はオフ・ザ・ピッチにおける準備（ユニホームや用具の管理、荷物の整理整頓、グランド外の行動など）は全て自分自身で行うこととしている。よって、コーチやスタッフ、そして保護者による過剰なサポートは一切行わない。なぜなら、失敗を通して将来大きく飛躍してほしいと願うからである。

最後に、選手を快く派遣していただいた所属チーム、コーチの皆様に厚くお礼申しあげます。大田区選抜の優勝は、所属チームにおける日々の指導の賜物です。引き続き、全チームによる技術活動（選抜、強化、育成）への選手の派遣、推薦のご協力をお願いします。

優勝という結果と共に、子どもたちの成長していく姿に感動しました。子どもたちの自信に満ち溢れた笑顔は金色に輝いていました。

報告者
大田区サッカー協会少年部　技術委員長
廣庭 秀高